

ピロリ菌感染の迅速検査キットをブータンで製造開始

(医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)*1)

- 検査キットの開発及び認証: ピロリ菌感染症の迅速検査法として、日ブータンで連携して便中抗原検査イムノクロマト(ICT)キットを開発した。ブータン首相より、ブータン国内認証(使用許可)は日本での製造販売承認取得をもって簡略化する方針が示され、現在、令和7年度調整費を用いて日本における承認申請を準備している。
- 検査キットの製造: 令和4年度より、ブータン保健省王立疾病管理センター(RCDC)にICTキット製造に必要な設備導入、人材育成を続け、令和7年9月にブータン内の製造体制構築を完成した。これまで高価な輸入品キットに依存し、殆どの患者にとって診断が叶わなかったブータン医療現場を大きく変える画期的な出来事であり、ブータン新聞記事に紹介された。

<参考>

- 課題名: ピロリ菌感染症関連死撲滅に向けた中核拠点形成事業
- 研究期間: 令和3年度~8年度
- 研究代表者: (日本側)山岡吉生(大分大学教授)
(ブータン側) Pem Namgyel(ブータンケサー
ル・ギャルポ医科学大学・学長)
- *1 開発途上国のニーズを基に、地球規模課題を対象とし、社会実装の構想を有する国際共同研究を政府開発援助(ODA)と連携して推進するプログラム。AMEDとJICAが連携して実施している。



成果の紹介記事
(クエンセル(ブータン最大の新聞)より)